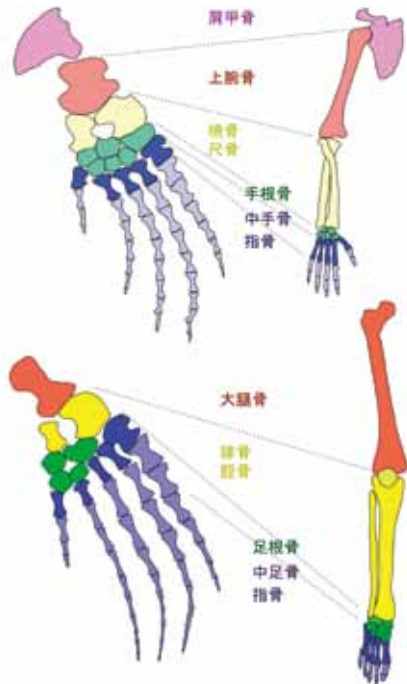


モササウルスの「かたち」②

ヒトの祖先は、二足歩行になる以前は樹上で生活をしていたのですが、その頃から物をつかんだり、木の枝にぶら下がったりするなど、手（前脚）の機能は「走る」ことから大きく変化していきました。一方で水中で生活する爬虫類や哺乳類は、陸上生活から再び水に入ったことで、手足は再度泳ぎに特化した機能に変化していったため、手足のかたちが陸上生物と大きく異なるようになりました。

●ヒトの骨との比較

ワカヤマソウリユウとヒトの手足を比較してみましょう。骨の部位は大きな違いがありませんが、ワカヤマソウリユウは上腕骨や大腿骨などが短く、指が長いことが分かります。水中では、泳ぎやすくなるようにひれが大きく、そして漕ぐ力を最大限発揮できるように腕は短くなっています。ワカヤマソウリユウの手足は、クジラの腕などともよく似たバランスをしています。



●水生爬虫類・哺乳類とワカヤマソウリユウの違い

水中での生活が長くなると、多くの生き物は後足を消失させてしっぽの力で泳ぐかたちに変化していきます。多くのモササウルスも、後足は退化していく傾向にあります。ワカヤマソウリユウだけは後足も大きいままで、これが特徴の一つとなっています。

アザラシやアシカなど陸に上られる鰭脚類には、しっかりとした後足がありますが、ワカヤマソウリユウは陸に上がることはできません。

化石として発見されたワカヤマソウリユウのしっぽは、ほとんどが失われていましたが、それほど小さいわけではないようです。しっぽも後足も、両方とも利用していたとなると、これまで知られていたどの水中生物とも異なる泳ぎ方をしていたことになるでしょう。この点については、まだ解明されていないワカヤマソウリユウの大きな謎の一つといえます。